

委員会レポート

建設産業福祉 常任委員会

多世代交流施設の 愛称募集

11月7日 協議会開催

豊坂学区に建設中の多世代交流施設。平成30年4月1日の開所に向け、施設の愛称や職員募集の手順が示された。

Q 愛称の応募状況は。
A はがき、メール、応募箱などで合計68件。

Q 愛称の選定方法は。
A 役場・教育・議員・地域の各代表が集まり、11月24日の選考会で決定予定。

Q 職員の募集人員は。
A 当面は4人体制です。

タートプ。

障害者地域活動支援センターの指定管理者の選定の運営を、平成30年4月から社会福祉法人愛恵協会に移行する。

Q 利用者の負担は。
A 現在と変わらず、ゼロ円のまま。

Q 現在の職員は。
A ほとんどの職員が継続を希望している。

Q 宿泊可能なショートステイ事業への拡大は。
A 新しく建物を建てる必要があるのでは、何年か先。



多世代交流施設の遊戯室（イメージ図）

11月13日 管内視察

野場福岡線

岡崎市南部に新設される大学病院へのアクセス道路予定地を視察。平成30年度は、広田川の岡崎市側橋台工事を予定。

菱池遊水地事業

県による遊水地設計検討がすすんでいる。今後は、平時の土地利用や新たなアクセス道路の検討をすすめる。

幸田みやこ認定こども園

平成29年4月に開園し、33人の利用者がいる。

一般廃棄物最終処分場

平成19年度から埋立を開始し、平成28年度までの10年間で埋立率は30・2%。

老人福祉センター

エレベーター取替え、玄

いづも園・いづいの家 など視察



野場福岡線の橋台場所を確認

パーティーションに改修する。

いづいの家

指定管理が予定されている社会福祉法人愛恵協会。

今後の運営や就労移行支援・就労継続支援の充実を確認した。

特養まどかの郷

多床室のプライバシー確保のため、カーテンから

業務継続計画(BCP)の進捗状況

防災・減災対策特別委員会

11月6日 協議会開催

平成29年度総合防災訓練

通常業務85.6のうち、災害時でも求められる11.3業務と、災害対応業務22.0業務、合計33.3業務を非常時優先業務として選定。必要資源確保に予算措置を要するため、3月策定で作業をすすめている。

物資の流通が第一では。避難所までの輸送ルート上の確保、水道・電熱の拠点を追加した。

企業版BCPの状況は。企業、商工会に策定を働きかけていきたい。

9月2日、幸田町と関係機関団体など中心とした基幹訓練を防災広場で実施。

参加機関 52機関
参加人数 約600人
主な訓練内容は、シエイクアウト、ボランティア支援本部設置、救護所設置、避難訓練、自衛隊災害派遣要請情報収集、災害救助犬検索・倒壊家屋救出救助訓練、起震車・煙体験。

水防訓練、ミサイル訓練(Jアラート)の計画は。

検討したい。



設置された救護所での訓練

木造一戸建て

仮設住宅を視察

10月5日・6日 岩手県の住田町、平泉町、総合防災センターを視察

◇住田町 東日本大震災における後方支援の取り組み

いち早く支援体制を立て発災翌日には、日常生活品を被災地に届け、炊き出しも6日間で2万6000食を提供した。

「森林・林業日本一のまちづくり」の強みで、全国初の木造一戸建て仮設住宅93棟を45日間のスピード建設。その後、木の暖かさ、プライバシーが守られることが評価されている。

◇平泉町 観光地における災害対策

世界文化遺産の町ならではの、中尊寺特設消防隊・毛越寺消防隊の協力で、観光客の避難誘導、重要文化財搬出訓練を実施。婦人消



木の温もりが感じられる仮設住宅（住田町）

間1万人が利用。

※本町は平成24年7月に住田町、平泉町と災害時における相互応援協定を締結。

◇岩手県総合防災センター 講義・体験学習などのセミナーが6コースあり、年

防隊は、ハラール対応食、アレルギー対応食を研究して、炊き出し訓練を実施。